

5号機 原子炉冷却材再循環ポンプ用電源装置の油ポンプの不調について(続報)

平成18年5月2日

◆本日お知らせする内容

推定原因	<p>原因調査の結果、当該油ポンプ入口油配管の注油口(※1)の栓に僅かな緩みが確認できました。</p> <p>このことから、注油口の栓に隙間が生じ、配管内部に空気が徐々に入り込んだため、油が油タンクに抜け落ち、ポンプを起動した際に、油を吸い込むことができなかつたと推定しました。</p>
対策	<p>注油口の栓を再施工するとともに、栓の周りを漏洩防止材で覆い、空気が配管内部に入り込むことを防止しました。</p> <p>また、当該油ポンプの確認運転を行い、必要な油圧を確保できることを確認しました。</p>

※1 注油口は分解点検後に油配管に油を満たすために設置されています。

◆これまでにお知らせした内容

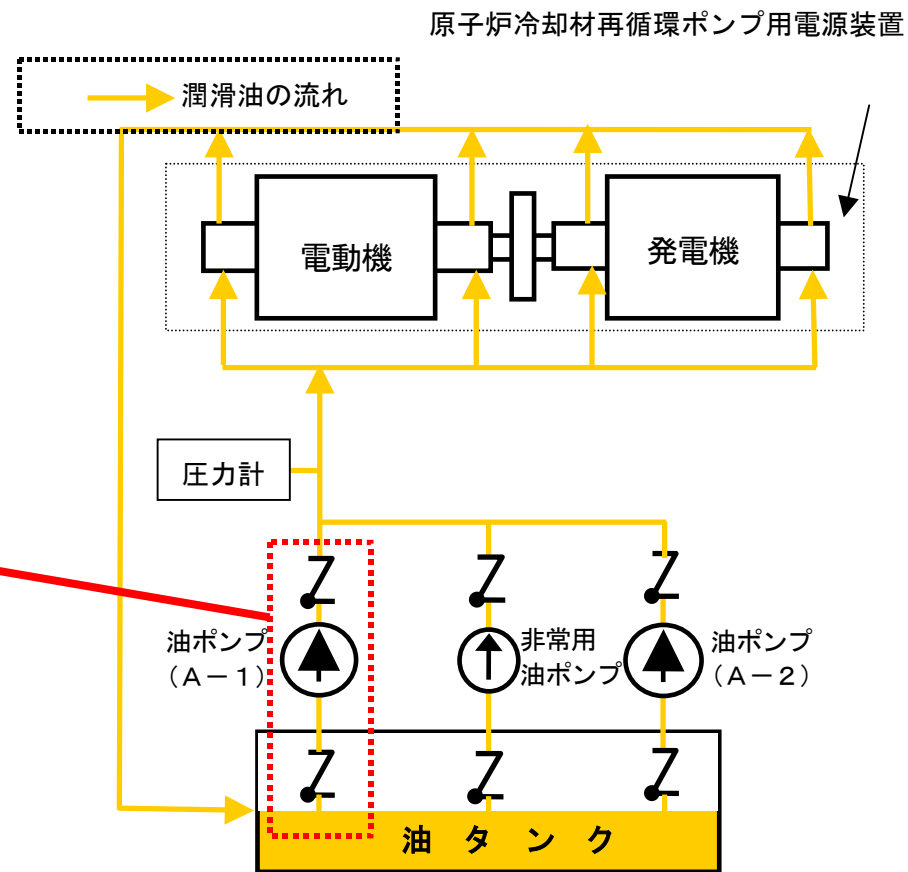
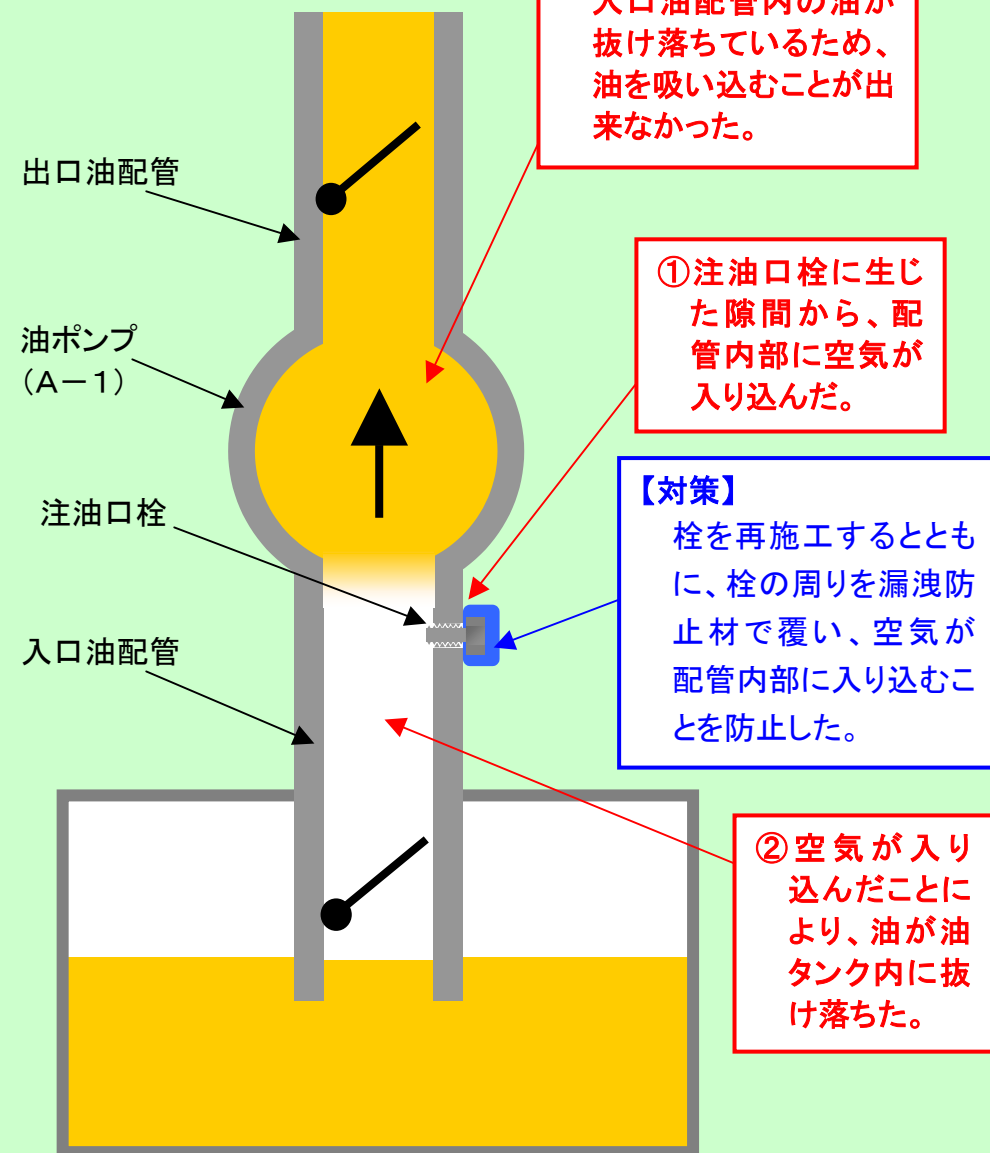
(平成18年4月28日お知らせ済み)

発生号機	<p>5号機 (定格熱出力一定運転中)</p> <p>:改良型沸騰水型、定格電気出力138万キロワット</p>
発生年月日	平成18年4月27日
発生時の状況	<p>定格熱出力一定運転中の5号機において、原子炉冷却材再循環ポンプの電源装置(A)(※1)の軸受け部に潤滑油を供給する油ポンプ(2台のうち通常は1台運転)について、4月27日午後10時50分頃、運転中のA-2ポンプからA-1ポンプへの定期的な運転切り替え操作を実施したところ、A-1ポンプでは必要な油圧を確保できないことがわかりました。</p> <p>なお、現在A-2ポンプが運転していることから、原子炉冷却材再循環ポンプ用電源装置(A)の健全性に問題はありません。</p> <p>本事象による5号機の運転への影響はなく、安定に運転を継続しています。</p> <p>また、外部への放射能の影響もありません。</p>
原因及び対策	原因調査を実施し、必要な補修を実施します。
お知らせ基準	「表2-1に該当します。」

※1 原子炉冷却材再循環ポンプ用電源装置は、原子炉内の冷却水を循環させるポンプ(原子炉冷却材再循環ポンプ)に電源を供給する装置です。交流電源喪失の際、同電源装置の回転の慣性力によって、原子炉冷却材再循環ポンプへの電源の供給を数秒間持続させるために設置しています。これにより、原子炉内の冷却水の循環量の急激な変化が緩和され、燃料の冷却性能が向上します。5号機には同電源装置が原子炉建屋1階(放射線管理区域外)に(A)と(B)の2台設置されており、それぞれ原子炉冷却材再循環ポンプ3台(合計6台)に電源を供給しています。

以 上

推定原因



原子炉冷却材再循環ポンプ用電源装置油系統 概略図